

は一九五八年、私財をなげうって「ニッポニア・ホーム」というカナダ唯一の日系養老院をオンタリオ州南部のヒームズ



▼本間留吉
◀収容所への「移動」を待つ人々たち。

ビルに創設している。フレージャー川で鮭漁に従事していた本間留吉（千葉

出身。フレージャー河漁者団体団長）は、元は武家の出ということもあつて、一八九五年に定められた日系カナダ人に投票権を与えないというアライテイツシュ・コロンビア州政府の選挙法に対して、ほとんど単独で抵抗した。この権利の侵害は一九四九年まで撤回されなかった。しかし、リッチモンドには、彼の努力を讃え

て、ある学校に本間の名前が冠されている。

これらの——いや、すべての——一世先駆者たちがカナダ西部の発展に寄与した功績は計りしれないものがある。バンクーバー島カンベラードにある墓地には、炭坑爆発や山の事故による被害者が数多く埋葬されている。一九〇四年にニュー・ウエストミンスターで起きた鉄道事故では二十二人の若い一世が、そして一九一〇年、カナダ太平洋鉄道の本線を襲つ

た雪崩事故ではさらに三十人が命を落している。

ヨーロッパで世界第一次大戦が勃発すると、多くの一世が志願した。そのうちおよそ二百人が海外に出征し、殊勲をたてた。四十四人は永久に帰らぬ人となった。

一世の女性で、男性のような華々しい成果をあげた人はいない。しかし、夫とこの若い国に根をはやすための苦難と犠牲を共にしたという意味では、男性に劣らぬパイオニアといえよう。

最初の日本女性がバンクーバーにやってきたのは一八八七年であるが、永住を希望する男たちが妻を求め始めたのは一九〇五年頃になってからである。こうして若い花嫁たちが、「写真結婚」などを通じて、この見知らぬ土地へ、そしてまだ見ぬ夫のところへ、不安な胸をおさえながらやってきたのである。彼女たちは、妻として、母親として、そしてときには日本の文化的伝統の伝達者として、家庭に指針と安らぎを、そして日系人社会に安定と調和をもたらした。カナダで生まれた日系の息子や娘たち——すなわち二世——を、誇りある有能なカナダ人に育てたのは、まさにこれらの母親たちであった。一世日系人女性の最大の貢献は、そこにある。

日本人の移民は一九〇八年、アライテイツシュ・コロンビア州の州民や政治家たちの圧力によつて制限されたが、妻として入国する女性はこれから除外された。

一九二八年にはこうした女性に対する制限も強化され、入国者は激減した。しかし、一九〇五年から一九二五年までにかの女性が入国したため、一九一〇年

頃から二世の誕生が増え、三〇年初期にピークに達した。

二世が成年期を迎えた一九三〇年の頃は、世界的な恐慌の最中であつた。おまけに、アライテイツシュ・コロンビア州では、政府や民間事業家がアジア人に対する差別的雇用政策をとつたため、仕事の口も制限された。日系漁者に対する許可証（ライセンス）も削減されたため、



▼戦時中のタシメ収容所（アライテイツシュ・コロンビア州）。

生活の基盤を失つたものも多い。

日本の満州および中国侵略は、日系人のこうした苦境に油をそそぐことになった。日和見的な政治家や偏見をもつた煽

動者たちは、アジア情勢をなてに、日系カナダ人のカナダに対する忠誠心を問い、根拠のない非難をあげて彼らをいじめた。

成長期に達した二世にとつて、基本的な問題は帰化、カナダ生まれを問わず、すべてのアジア系住民の選挙権が否定されたことである。一九二六年、これらの二世は「日系カナダ市民連盟」を組織した。彼らがまずやつたのは、オタワに代表団を派遣して、選挙権の回復を計ることであつた。しかし、これは不首尾に終つた。そのときに団長をつとめたのが、昨年、米国で上院議員に選出されて話題になつたサミエル・I・ハヤカワ氏（言語学者。元サンフランシスコ州立大学学長）である。

一九三九年にカナダがドイツに対して宣戦を布告すると、日系カナダ人は行動と言葉で忠誠の態度を示した。これで彼らに対する圧力もいくらか緩和した。

しかし、日本はやがて枢軸国同盟に加わる。……そして一九四一年十二月七日の真珠湾攻撃。日系人を隔離あるいは追放せよ、という声は高まつた。そしてカナダ政府は、米国政府同様、すべての日系人に太平洋沿岸一帯から移動するよう命令した。カナダ全体における日系人二万三千人のうち、一万二千人がその影響を受けた。しかも、その大半はカナダ生まれか、カナダに帰化した、れっきとしたカナダ人だつた。

住みなれたところから追い立てられるのは、つらくて、悲しいことだつた。家族は引きさかれ、男は労働キャンプに送られた。農夫は土地を手離し、商店主は安値で店を処分した。日系人だけがカナダにおいて「敵性」民族とされたことは、このきわめて不当な仕打ちを一層不当なものとした。

この総移動により、日系カナダ人の環境は劇的に変わった。例えば、日系人の地理的分布では、一九四一年には日系人の九八パーセントがアライテイツシュ・コロンビア州に居住していたのに、移動・再定住以後はオンタリオ州を先頭に、アルバータ、マニトバ、ケベックなどの各州に数多く住むようになった。

永野萬蔵のような一世たちはカナダに根をはやそうと苦勞した。彼らの子孫たちは、その根を保持しようと戦つた。彼らは不屈な精神と静かな勇気をもつて、この難事に耐え、それを乗り切つた。日系カナダ人は自分たちの価値を証明した。